

どんぐり保育園

園だより



2026. 2月号

Eメール donguri_mori@cup.ocn.ne.jp

ホームページ <http://minnanomori.jp>

鬼は外～福は内～

2月3日は節分の日。朝から幼児クラスの子どもたちはソワソワしていました。「おにくるかな～」と仲間と会話する声や「ヒイラギとりにいこー」と朝から散歩に出かけ鬼退治をする準備をしていました。どんぐり保育園の赤鬼、青鬼は毎年保護者の方に協力してもらっています。今年もお父さん2人が鬼を演じてくれました。乳児クラスの子どもたちもそれなりに何か起こるぞと感じているようで、お昼寝後は部屋の中に緊張感が漂っていました。乳児に来る鬼は姿を見せるだけなので、程よい距離感を取りながらも、ひよこさんからくまさんに行くに連れて、子どもたちも果敢に鬼に豆を投げていました。そのあとは幼児クラスです。各クラスの扉にはバッチリ鬼の苦手なヒイラギが貼り付けられており、「はいってくるなよー」と物語っていました。異年齢クラスでまとまっていたので、やまさんが部屋の隅に逃げると、その前にうみさんそらさんが立ちはだかり、懸命に豆を投げて守ってくれていました。とは言っても簡単にはやられない鬼たち。最後は幼児クラス全体で鬼をやっつけていました。節分の鬼は子どもに怖い思いをさせたりと決して子どもを脅すようなものではありません。自分の中にある「〇〇おにをやっつけたい」と子どもたちが自分の気持ちと向き合う時間です。

鬼を退治した後は、優しい福の神がやってきました。（福の神も保護者のお母さんが演じてくれました）ホッと胸をなでおろす子どもたち。子どもたちの顔に笑顔が戻りました。たくさんお菓子をまいてもらい、最後には楽しい時間となりました。日本の伝統行事が少しずつ薄れてきている時代ですが、どんぐり保育園では伝統行事に触れたり、季節を感じる行事をこれからも大切に過ごしていきたいと思えます。



仲間とともに作る生活発表会

2月14日は生活発表会です。昨年度から発表会は幼児クラスのみとなりました。

今年も幼児の異年齢クラスごとに話し合いが盛り上がっています。今年は特に題材決めに苦慮したようで、どのグループもなかなか決まらず、何度も意見を交わし合っていました。題材もみんなの一つに決めれば良いですが、子どもたちの話し合いです。そう簡単には進みません。その中で自分の思いを伝え、相手の思いを受けながら、これなら納得できるところを考えていきます。今年は何のグループも2つの題材をもとにオリジナルのストーリーを作って劇ごっこに向かっています。観客の視点から見ると「何のお話かな？」と思う部分があるかもしれません。しかし、子どもたちは最年少の3歳児がわかりやすいようにと紙芝居を作ったり、お話には出てこないけど〇〇役がいい！という一人ひとりの思いを最大限に生かしながら、どの子の意見も大事にされる話し合いの末のストーリーとなっています。ぜひ、幼児クラスの保護者の皆さんは日頃のおたよりを熟読していただき、より当日が楽しめるようご協力をお願いいたします。

乳児クラスの子どもたちにはより日常の様子を見てもらいたいということでクラスごとに夕方の開催にしています。大きな舞台に多くの人の前では非日常になってしまいます。乳児クラスの間は安心できる環境の中で、自分の家族に見てもらえることが何よりの自信になり、その経験が幼児クラスの発表会に繋がっていくと私たちは考えています。

どんぐり保育園の発表会は大人が作り、子どもたちに与えるものではありません。子どもたちが自分たちで考え、遊びを展開していきます。だからこそ小さなやりとりにもご注目いただき、子どもならではの発表会をどうぞお楽しみください。